2Mp-2　高齢者のボタンかけはずし動作

○猪又美栄子　中村亜矢子
（昭和女子大）

<目的>高齢者が着脱しやすい衣服設計を目的に、ボタンのかけはずしについて着用実験を行った。
<方法>ボタンかけはずし動作をビデオ撮影し、所要時間の測定、手・指の動きの観察を行った。同時にボタンのかけはずしのしやすさの官能検査を行った。今回は、ボタンのつけ方とボタンのかけはずしのしやすさについて実験を進めた。1）被験者の体型にあった既製ワイシャツとボタンつけの足の糸を長くしたワイシャツのボタンのかけはずしを比較した。2）基本的な木綿ブラウスのボタンを木綿糸でつけた場合と、ゴム糸でつけた場合で比較した。3）ワイシャツとポロシャツのボタンのかけはずしについて比較した。
被験者は、健康な60歳代から90歳代の高齢男女と20歳前後の男女学生である。
<結果>1）所要時間から、袖口と前明きの第1ボタンのかけはずしがしにくいことが確認された。2）既製ワイシャツよりもボタンつけの足の糸が長い方が、袖口と前明きの第1ボタンのかけはずしの所要時間が、他の位置の場合よりも最大値の減少が大きく、ばらつきが小さくなった。またボタンつけの糸を木綿糸とゴム糸で比較した場合も同様の結果であった。したがってボタンがかけにくい高齢者にとって、ボタンの付け方の工夫が有効であることが確認された。3）官能検査の結果、ボタンをゴム糸でつけた場合全員が「かけやすい」と回答した。ボタンのかけはずしのしやすさの感覚にゴム糸のボタンつけが有効であることが分かった。4）ビデオ観察の結果から、ワイシャツの第1ボタンのかけ方に様々な動作パターンがあることが分かった。